

平成28年10月8日～13日

フィリピンレイテ島 訪問報告書

認定NPO法人 WITH事務局
〒504-0913 岐阜県各務原市那加大東町61番地の2
TEL.058-382-3688
FAX.058-389-1201

<http://www.with-pj.org>
E-mail/info@with-pj.org

認定
NPO法人
WITH





未来のためにできること

「WITH」は、
アジア諸国において植樹活動、
物資支援を行う特定非営利活動法人です。

近年、アジアを中心に各国で地滑り・水害など多数の災害が発生し、多くの人々が犠牲となり、地球温暖化も進んでいます。その原因として、後を絶たない森林の違法伐採があげられ、年々悪化しつつあります。この問題の解決の糸口として、アジア諸国での植樹活動および現地の子供たちに物資を支援し、健全な育成を図ることを目的とし、2007年4月、特定非営利活動法人WITHを設立いたしました。未来の地球環境の保護に貢献すべく、今後も活動を継続し、拡大していきたいと考えております。2016年10月8日～13日の6日間、第16回マングローブ植樹事業として、フィリピンへ行ってまいりました。今年7月に続き今年2回目のレイテ島訪問です。マングローブ植樹、及び地元の小学校の生徒達に合計約210kgの衣服や文具の支援を行いました。また今回のツアーに関しては大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）様より助成金をいただいて事業を行いました。今後とも「WITH」の活動にご賛同いただくとともに、ご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。

代表 橋本 佳幸

平成28年10月1日 WITH事務局にて

10月8日からの植樹ツアーの準備のため、参加メンバーによって荷詰めが行われました。荷物の重量の制限は7月に続き、1人30Kg！衣類やボール、文具などをスーツケースに詰め込みました。



レイテ島まではマニラ空港から飛行機で約1時間程

7月訪問時、現地の子どもサッカーチームと交流試合をしました。今回はその子供たちのためにスポーツシューズをたくさん持っていきます。今回は30kgの荷物に初めて挑戦するメンバーも沢山います。皆、荷詰めに大苦戦！



平成28年10月8日 中部国際空港

フィリピンエアラインのチェックインカウンター前で集合。

19:00 セントレア集合

チェックイン。今回は川本、三輪、佐々木、太田、系数、堀、大野の7名の参加。

9:10 セブパシフィック 5J5039便

いよいよマニラに向け出発。

平成28年10月9日

1:05(現地時間) マニラ着

無事フィリピンに到着。

2:15 国内線カウンター

次のフライトが4時台なのでそのままチェックイン。空港内で待機です。

4:25 セブパシフィック 5J5051便

レイテ島に向け出発、深夜ですがメンバー皆元気です！

5:20 タクロバン空港

レイテ島着。やはり周りはまだ少し暗いです。

現地スタッフと合流。

11:10 現地にて昼食。

マンゴーや焼き鳥などフィリピン料理をいただきました。

15:40 ホテルチェックイン

ようやく長旅の疲れを癒せます。

18:30 夕食

明日は植樹や学校でのセレモニー。

みんなで明日の予定を確認しました。

21:00 就寝



深夜ですがみなさん元気



レイテに向け搭乗



フィリピン料理のおもてなし



焼き鳥も美味しい！



宿泊する部屋

平成28年10月10日

7:30 起床

9:30 セレモニーが開かれる小学校へ移動。

先生やこどもたち、村の人たちが歓迎してくれました。

ミニゲームや日本からの支援物資の贈呈などで交流しました。

来年もこどもたちに会えるのが楽しみです。



日本の旗を振って歓迎



沢山の人が集まってくれました



歌やダンスで歓迎



学校から表彰されました。ありがとうございます！



椅子取りゲームで盛り上がりました！



11:05 セレモニー終了

名残惜しいですが、小学校でのセレモニーを終了して、植樹サイトへ移動します。

12:40 途中昼食を済ませ植樹サイトへ

今年契約し、7月に視察したサイトです。

大人数での植樹は今回がはじめてです。

ここへ初めて来るスタッフも多く、新たな決意を胸に、植樹しました。

先ほどのセレモニーをした小学校からも子どもたちがお手伝いに来ました。



先生たちにもお世話になりました



サイト到着



ナサリーにて現地スタッフも集集合



今回の苗



はじめてこのサイトに訪れたスタッフがほとんど



既存の苗



大分潮も引いています



植樹方法を確認



村の人たちもお手伝い









13:40 植樹終了
来年の苗の成長を見るのが楽しみです。WITHでは今後もこのサイトにて植樹を続けていきます。
植樹終了後、ナサリーにて手伝ってくれた子ども達におやつを配りました。



16:00 7月にサッカーの交流試合したチームと再会。
シューズなどプレゼントして、今年もサッカーをプレイしました！
前回と同じく白熱したゲームになりました。

18:00 すっかり夜に。ホテルへ戻ります。

19:00 ホテル近くで夕食

21:00 就寝

今日は一日イベントで皆疲労気味。

今晚は早い就寝です。

平成28年10月11日

8:00 起床

今日はマニラへ移動します。

14:50 タクロバン空港チェックイン

16:45 セブパシフィック 5J5054便

マニラへ向けフライト

17:50 マニラ到着

21:00 就寝



サッカーで交流しました



また来年もゲームしましょう！



マニラへ戻ってきました！

平成28年10月12日

9:00 ホテル集合

ケソン市のパヤタスになるゴミ廃棄施設へ見学に行きます。

<<パヤタス市廃棄物処分場とは??>>

パヤタス・ダンプサイトが廃棄物処分場として政府から認可されたのは1973年と言われているが、すでに1960年代から廃棄物の集積が始まっていた。しかし、その名が国際的に知られるようになったのは1990年代になってからである。

かつてメトロマニラ港湾部のトンド地区にスモークー・マウンテン (Smokey Mountain) と呼ばれる最終処分場が存在した。この処分場はフィリピンの貧困の象徴として各国の批判を浴びたため、1995年11月、フィデル・ラモス大統領によって閉鎖された。

その際、スモークー・マウンテン周辺で廃棄物を拾って生活していた人々(スカベンジャー(scavenger)と呼ばれる)の多くがパヤタス・ダンプサイト周辺に移住してきた。彼らには新たな住居が用意されてはいたものの、その高額な賃料が払えなかったのである。

かくしてパヤタス・ダンプサイトには1日当たり6334トン(1995年)にのぼる膨大な廃棄物が分別無しに集められ、巨大なごみの山が作られた。そしてその周辺にはスカベンジャー達のバラック、さらには彼らから有価物を買取る業者のバラックまでが建ち並び、皮肉にも本家のスモークー・マウンテンに勝るとも劣らないスラムが形成されることとなった。有害な化学物質や腐敗したごみ山から発生するメタンガスにより住民の健康被害も深刻であった。専門家はごみ山の崩壊の可能性を指摘していたが、処分場が生み出す利益の巨大さとそれによる利権構造ゆえに放置され続けたのである。

そしてついには2000年7月10日午前8時頃、高さ約30m、幅約100mにわたってごみの山が崩落し、約500軒のバラックが下敷きとなった。救出作業は困難を極め、7月22日に捜索は打ち切られた。公式に確認された死者は234名であるが、実際の犠牲者は400名とも800名とも言われる。もともとごみ山の斜面が急すぎたうえ、台風の雨が一週間以上も降りつづいたことが原因であると考えられている。

この大惨事を受けてパヤタス・ダンプサイトは事故から4日後に閉鎖されたが、メトロ・マニラの廃棄物処分場の処理能力が危機的な状況になったため2001年半ばに再開され、現在に至っている。

ウィキペディアより





正式名称は「ケソン市統合廃棄物処理施設」
 請負で一般の会社が運営しているようです。
 職員に施設の運用、現状など説明を受けることができました。
 施設からは閉鎖した前のスモークマウンテンを
 遠くに覗き見ることができます。



12:15 施設を後にして昼食をとる

18:00 市内を視察してホテルへもどる。

21:00 就寝

平成28年10月13日

11:00 ホテル集合

12:00 マニラ空港チェックイン

空港内で昼食

15:20 セブパシフィック 5J5038便

名古屋へ向けフライト

20:30 セントレア空港着

無事名古屋へ戻ってきました。

みなさまお疲れ様でした。



ホテル出発



マニラ空港にて、相変わらず混雑



皆様長旅お疲れ様でした！